

特集

うちのお雑煮

〜気になる、よその雑煮〜



地域や家庭の特徴が色濃く出るといわれる正月の定番料理「雑煮」。他の家の雑煮を知ること、新しい発見があるかもしれません。

図秘書広報室 ☎32-2029

調理協力：岡田成子さん（安井フエントナーの会代表）



美作大学短期大学部
栄養学科教授
藤井わか子さん

雑煮の始まりは室町時代
文献によると、雑煮が誕生したのは室町時代の頃で、將軍の訪問、上流階級の婚礼のお色直しするときなど、おめでたい席に出されていました。今でも、京都や大阪では、神前結婚の宴会に雑煮が付くそうです。
正月の雑煮の記録は、1364年の書物に登場します。京の風俗を記した1685年の書物『日次記事』には、身分に関係なく食べていることが書かれ、江戸時代初期には、庶民にも広がっていたといえるようです。
年越しの夜、年神様を迎えるため、餅と地場の産物を供えます。そのお供えを下げ、一つの鍋で煮るのが雑煮で、神様と一緒に食べる大切な儀式でした。雑煮などを食べるときに使う祝い箸の両端が細くなっているのは、一方が人用、もう一方が神用といわれます。

令和3年度 津山市文化功労者表彰

藤田 長久さん（院庄）

写真前列・左から3番目



藤田さんは、昭和59年4月から平成10年3月まで津山市体育協会（現スポーツ協会）理事を務め、平成17年5月から令和3年5月に退任するまで、副会長、会長の要職を歴任されました。この期間、卓抜なる識見と技量でその手腕を発揮し、津山市体育協会の統合、「夢アスリートつやま」育成事業の策定と実施など、競技力の向上と競技スポーツ活動の推進に尽力されました。また、長年にわたり津山市体育指導委員（現スポーツ推進委員）を務め、平成24年4月から平成30年3月には、津山市スポーツ推進委員協議会会長、岡山県スポーツ推進委員協議会副会長、同協議会美作支部会長を歴任するなど、精力的に生涯スポーツの調査と研究を行い、その普及発展に多大な貢献をされました。現在も自ら地域の剣道競技の指導を行う傍ら、積極的に後進の育成に尽力されています。長きにわたり、本市のスポーツ振興に貢献された藤田さんの功績は誠に顕著であります。

11月3日、津山市文化功労者表彰式を行いました。
文化功労者表彰では、長年にわたり市の社会・文化・自治・産業などで活躍され、市政進展・市民福祉の向上に特筆すべき功績のあった人や団体を表彰しています。

図秘書広報室 ☎32-2026

蘭学・洋学 三津同盟 締結



同じ「津」の字でつながり、優れた蘭学者・洋学者を輩出した共通の歴史的背景を持つ、大分県中津市・島根県津和野町・津山市が同盟を締結。11月18日、津山洋学資料館で、奥塚中津市長（写真左）・下森津和野町長（同右）・谷口津山市長が、同盟締結書に調印しました。今後、「蘭学・洋学のまち」として、3市町で連携・協力し、学術研究、観光などを盛り上げていきます。同盟締結の背景など、詳しくは広報津山2月号で紹介いたします。
図文化課（津山洋学資料館） ☎23-3324